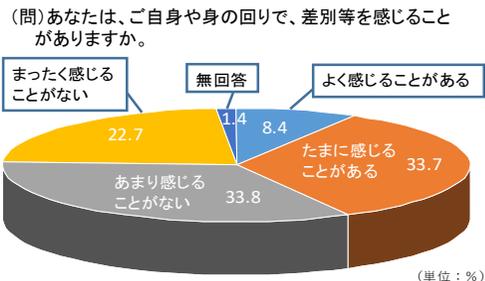
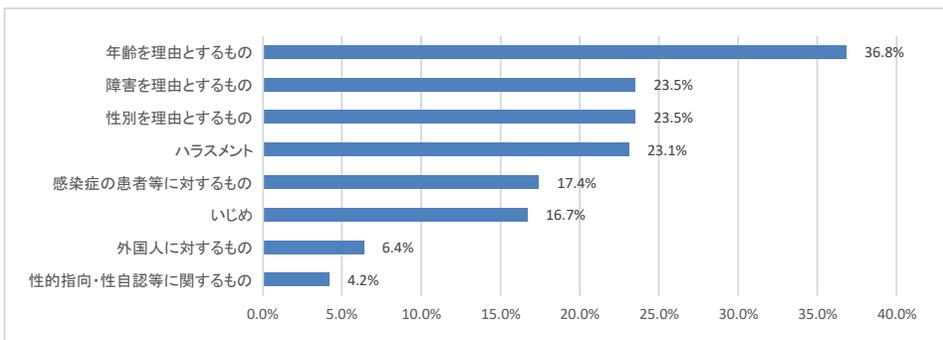


1 令和4年度県民意識調査から

- 各種政策の立案等のため、毎年、5月から6月にかけて、県民5,000人に対し各分野の取組などに関して意見を求めるアンケート調査を実施。(回答率50%~60%)
- 頻度にかかわらず差別を感じている人の割合は、75.9%であり、多くの人が何らかの差別等を感じている結果であった。
- また、感じた差別の種類については、「年齢」が36.8%、次いで「障害」、「性別」が23.5%、「ハラスメント」が23.1%と高い割合となっている。

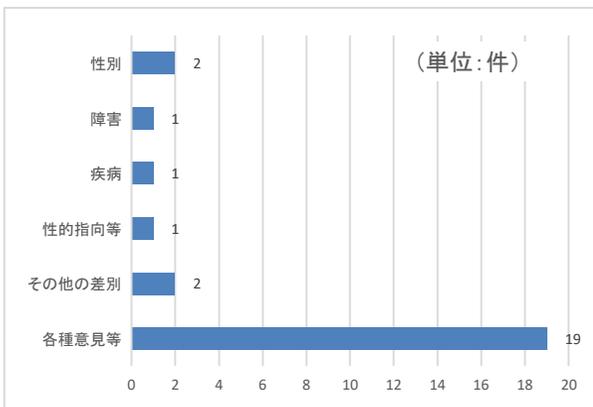


(問)どのような差別等を感じるがありますか(複数回答可)。



2 差別等相談窓口の状況(10月末)

- 令和4年4月1日から、あきた未来戦略課内に差別等相談窓口を設置し、電話、メール及び面談により、相談を受付している。
- 合計で26件の相談があり、差別等に関しては、合計7件で、内訳は「性別」2件、「障害」1件、「疾病」1件、「性的指向等」1件、「その他の差別」2件である。
- この他、19件は、行政への各種意見や苦情等(条例の対象外)である。
- 相談への対応は、聞き取りのみ12件、窓口の紹介が7件、窓口へのつながりが2件、関係機関への情報提供が5件となっている。



3 各種メディア等を活用した広報・啓発

- 各種会議における概要説明等
4月~7月にかけて商工、観光、建設、福祉等の各種団体の会合において、概要説明を実施
- テレビCM等の放映
7月上旬から、1回15秒、1日当たり2回程度のCMの放映を開始(令和5年3月末まで実施予定)
6月、7月及び8月に計7回の情報番組パブリシティ又はミニ番組の放映
- 動画配信サイト広告の実施
7月中旬から、動画配信サイトYouTubeにおいて、30歳代までを主な対象とした動画広告を実施
動画の内容は、上記2のテレビCMと同様のもの
- 全戸配布広報紙への掲載及び新聞広告の実施
県全戸配布広報紙あきたびじょん5月号に、基本条例に関する記事を掲載
8月7日、県内3紙に、全面広告を掲載
- 理解促進動画の配信
理解促進動画「喫茶ダイバーシティ」を作成し、8月上旬から動画配信サイトYouTubeで配信を開始
県庁内各部署、市町村、各種団体等に視聴に関する依頼
- 研修・講座等の実施
県・市町村の新規採用職員研修(計5回実施)において、多様性に満ちた社会づくりに関する研修を実施
大学及び市町村の求めに応じて、各種講座等における説明を実施
- フォーラムの開催
9月1日、ライフールホームズ総研の島原所長を招き、多様性に満ちた社会づくりフォーラムを開催
また、パネリストとして、次の4名を招き、パネルディスカッションを実施
<パネリスト>
○ 秋田大学教育文化学部 教授 山名 裕子 氏
○ 国際教養大学ダイバーシティクラブ 伊藤 月菜 氏
○ シンガー・ソングライター 大川 ちさと 氏
○ 仙北市地域おこし協力隊 東風平 詩人 氏



4 これまでの取組に関する意見

今年度行った関係者との意見交換や研修・講座等におけるアンケートにおいて、次のような意見があった。

- 【取組に関する意見】
- CMや理解促進動画が分かりやすかった。
 - フォーラムのパネリストに高齢者も入れるべき。
 - 若者にはSNS・動画、高齢者にはテレビが効果がある。
 - 全ての世代に対して、広報・啓発すべき。
- 【差別等の具体例】
- 結婚、出産に関する押しつけ
 - 障害を持った人に対する村八分的な態度
 - 医療従事者に必要以上の対策を求められること
 - 上司の高圧的な態度やバワハラ
 - 若いというだけで意見を聞いてもらえないこと

